

事業の背景・目的

牛久沼では、近年特にアカミミガメ（通称：ミドリガメ）の急増が深刻化しており、アカミミガメの急増と時を同じくして、当該地生態系の重要な構成要素であり水質浄化作用のあるガマやヨシなどの水生植物が減少した。ハスについては、以前、流入河川の一部にまとまって花を咲かせていたことから、数年ほど前には、河幅全域に広がったハスの駆除を行ったことがあるほどであったが、現在は全くと言っていいほど見掛けなくなっている。

これら水生植物の減少は、植物の芽を捕食するアカミミガメの食害の影響が大きいと考えられることから、牛久沼の生態系の保全や水質浄化作用のある水生植物を守るため、牛久沼からの除去を行った。

事業の内容

- ・アカミミガメの除去
牛久沼に生息するアカミミガメを捕獲・処分し、牛久沼からの除去を行った。
アカミミガメの除去は、当協議会の構成団体である牛久沼漁業協同組合に依頼し、組合員等による張り網やカニ網の設置により実施し、網を仕掛ける人件費、船舶使用料、網賃借料等に係る経費を含めた1匹180円で当協議会が買い取る形で行った。
なお、捕獲個体が安楽死のための処理・保管場所である冷凍庫で処理しきれないことを想定し、廃校となった小学校のプールを一時保管用の生け簀として準備し、処分を行った。
- ・アカミミガメ除去効果の確認
アカミミガメの除去効果を確認するため、アカミミガメの個体の大きさ、捕獲地点の地図への落とし込み、ハスやガマ等の水生植物の定点観察を行った。
- ・住民への意識啓発
「牛久沼水質浄化パンフレット」において、アカミミガメの生態やこれまでの取り組んできたアカミミガメの捕獲について説明した。

得られた成果

牛久沼の張り網漁が解禁となる令和2年9月1日から事業を開始し、10月30日までの2か月間で、5,276匹のアカミミガメを捕獲・処分することができた。

捕獲したアカミミガメの体のサイズは、20cm以上の大型のものや15cm以上20cm未満の中型のものが半減し、15cm未満の小型の個体の割合が増加しており、これまでの取り組みにより、親ガメの生息密度が低下していると推測でき、今後、集団の個体数の減少につながるものと期待している。

ハスやガマ等の水生植物の定点観察は、令和2年8月24日に観察地点を設定し、令和3年3月24日に再度観察を行い、半年間の変化を比較した。水生植物の状況については、新芽の芽吹きは確認できたが、まだ冬枯れの状態であり、正確な状況は確認できなかったが、3月の定点観察においてもガマ等の新芽が食害による影響を受けていることが確認されており、今後も継続して事業に取り組んでいくことにより、徐々に効果が見えてくるものと考えている。